



平成 27 年 11 月 26 日

各 位

会社名 株式会社 オハラ
代表者名 代表取締役社長 齋藤 弘和
(コード番号 5218 東証第1部)
問合せ先 常務取締役 中島 隆
(T E L 042 (772) 2101 (代表))

通期業績予想の修正及び特別損失の計上に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 27 年 9 月 10 日に公表いたしました平成 27 年 10 月期通期（平成 26 年 11 月 1 日～平成 27 年 10 月 31 日）の連結業績予想を下記の通り修正するとともに、平成 27 年 10 月期決算において、下記のとおり特別損失を計上いたしましたので、その内容をお知らせいたします。

記

1. 平成 27 年 10 月期通期連結業績予想数値の修正

(1) 修正の内容

(平成 26 年 11 月 1 日～平成 27 年 10 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 22,700	百万円 150	百万円 600	百万円 100	円銭 4.11
今回修正予想 (B)	22,800	530	1,330	540	22.20
増減 (B - A)	100	380	730	440	—
増減率 (%)	0.4	253.3	121.7	440.0	—
(ご参考) 前期実績 (平成 26 年 10 月期通期)	24,797	△110	494	17	0.71

(2) 修正の理由

売上高は、光事業において、アジア地域での景気減速などの影響により、デジタルカメラ向けレンズ材の需要が弱含みで推移したものの、エレクトロニクス事業においては、特殊用途向け硝材の販売が堅調であったことから、前回予想をやや上回る見込みであります。

営業利益及び経常利益は、原料調達の改善や特殊用途向け硝材の生産効率の改善が当社想定を上回ったことから、前回予想を上回る見込みであります。

当期純利益は、前期に事業撤退した海外子会社の会社清算手続きの進行に伴い、今期に為替換算に伴う特別損失を計上する一方、当該子会社が所有する土地等の売却益を特別利益に計上することなどから、前回予想を上回る見込みであります。

2. 特別損失の発生及びその主な内容

前期に事業撤退した海外子会社の会社清算手続きが進行したことに伴い、子会社清算損 691 百万円を特別損失に計上いたしました。これは、当該海外子会社が連結の範囲から除外されることにより、連結決算手続において為替換算調整勘定を取り崩すことにより発生したものであります。

※ 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいて当社が判断したものであり、実際の業績等は、様々な要因により異なる結果となる可能性があります。

以 上